

第3回 小美玉市公共交通検討委員会 会議録

①会議名	小美玉市公共交通検討委員会
②開催日時	平成23年6月29日(水) 14:00～
③開催場所	小美玉市商工会館 3F会議室
④議題	(1) 昨年度の検討概要について(報告) (2) 今年度の検討事項について (3) その他
⑤出席委員	鶴町委員長、蓮見座長、野村副委員、関口委員、山口委員、笹目委員、石塚委員、立村委員、飯島委員、杉山委員、桜井委員、武藤委員、長津委員、上田委員、渡辺委員、清水委員、泰間委員・大森委員(代理: 牧瀬)、浅見委員(代理: 石田)、寺門委員(代理: 安達)、富田委員(代理: 近藤)、金子委員、伊野委員、樽見委員、東ヶ崎委員、森島委員、小松委員計26名
⑥欠席委員	岡本委員、萩原委員、内藤委員、中島委員、多島委員、沼田委員、川上委員、小林(義)委員、小林(雄)委員、萩原(博)委員、長谷川委員 計11名
⑦事務局	小美玉市 市長公室 企画調整課

審議経過および審議内容	
	委員長、座長挨拶、各委員自己紹介及び挨拶 以後、会議次第に従い、資料説明および審議を行った。 (1) 昨年度の検討概要について報告・・・事務局より資料説明 以下、審議内容
(委員)	P7のタクシー補助について、現行の補助制度では、補助金額が年間250万円となっているのに対して、年間48回に拡充すると、補助額が年間1,100万円になると見込まれているが、これでよいのか。
(事務局)	330人/日については、交通不便に居住している高齢者を母数として、アンケート結果から1日当りの潜在的な需要を算出している。その人たちが最大48回利用した場合の補助額である。
(委員)	1日当りの利用者数か。現状の実態としては、20数人のはずなので、おかしいのではないか。
(事務局)	利用してくれる可能性のある人たちの数である。
(委員)	1日当たり330人が、現行通り土日祝日も利用できるようにするとある。この人たちが年間365日毎日利用すると、8,000万円程度の補助になるので、考え方がおかしいのではないか。

審議経過および審議内容

- (事務局) 確かに 365 日毎日利用できるとすれば、そうなるかもしれないが、最大 48 回までという前提を立てているので、こういう試算となっている。
- (委員) 現状 10 数人程度であるので、1 日 330 人程度利用してもらえると
いう試算がおかしいのではないか。
- (座長) 330 人というのは、交通不便地域に住んでいる人のなかでタクシーを
利用してもらえる可能性のある人という理解でよいか。
- (事務局) その通りである。330 人は潜在需要として算出させて頂いた数値で、
年間補助額は、その人たちが 48 回利用した場合の数値であるという
ことで、ご了承いただきたいと思う。
- (座長) 正しい推定はなかなか出すのは難しいもので、小美玉市には交通不
便地域がかなり広範囲に存在している。アンケート結果からそこに
居住している人たちの中でタクシーを利用してくれそうな人たちが
330 人程度いそうだという予測をして、その人たちが最大 48 回利用
してくれるということで理解してもらいたい。
フィーダーという言い方が難しいと思うが、枝線という理解で良い
か。
- (事務局) はい、そういう意味である。
- (座長) (2) に進みたいと思うので、了承頂きたい。

(2) 今年度の検討事項について・・・・事務局より資料説明
以下、審議内容
- (委員) 今の調査計画では特定施設の 1 日を対象としたヒアリング調査となっ
ているが、ヒアリング自体は良いと思うが、対象者が特定されてしま
い広い意見が聞けないのではないかと思う。予算との関係もあると思
うが、もう少し調査対象範囲を広げた方が良いのではないか。
- (座長) 具体的には、どのあたりの人まで対象とした方が良いと思うのか。
- (委員) 平日昼間に実施するということで朝の学生などが調査対象となってい
ないのではないか。高齢者対象ということで、高齢者医療センターが
挙げられていると思うが、医療センターに通院していない高齢者はど
うするのかなど、平日 1 日、調査箇所が 5 箇所、時間帯が限られると
いったことから、市民全体の意向がつかめないのではないか。

審議経過および審議内容

- (座 長) 違う視点から意見を言うと、P5に主要結節拠点とあるが、ここのニーズを調べるとされており、市の拠点である市役所、保健医療関係で医療センター、通勤・通学ということで小川駅、羽鳥駅、ショッピングということでカスミ小川を選んでいるが、文化活動が抜けているのではないかと考えており、それを含めたほうが良いのではないかと。それと福祉関係も含めたほうが良いのではないかと。福祉関係は、どの施設で実施した方が良いか分からないが、調査した方が良いと思う。
- (委 員) 福祉施設はコスモスが主要施設となっているので、そこで良いと思う。
- (座 長) 生涯学習も確か玉里にあると思うが、それも合わせて調査してはどうか。
- (事務局) H20年度に市全体を対象としたアンケートを実施しており、それを基に市全体の課題を整理して、方針を出してきたところである。今回の調査は、実証実験に向けたものであり、循環軸及びフィーダー軸はどんなものが良いかを選定するのがねらいである。福祉関係・生涯学習関係施設も視野に入れて検討するようにする。
- (座 長) より広い市民の意向を把握するというよりも、より詳細なデータを収集して、追加していくということで理解して頂きたい。
- (委 員) ターゲットとなる年齢層はどこなのか。20～65歳、75歳以上なのか。交通弱者に重きを置いていると思うが、何歳ぐらいをターゲットにして、集めていくのか。
- (事務局) 調査対象となる年齢層は、指定した人が施設に来るかは分からないため、男性・女性、年齢ともに偏りがないように進めたいと思っている。高齢者などについては詳しく調査したいと思っている。
- (委 員) かしてつバス小川駅とあるが、10～20時の利用状況がどの程度あるか市では確認しているか。この時間帯は、朝夕の通勤通学が主となっているので、どの程度のサンプルがとれるか目安はあるか。
- (事務局) かしてつバスの利用者数については、乗降調査を実施しているため、把握している。市の職員が見ているかというのと、何回かは見ている。その範囲でいくと、昼間の時間帯の利用者は数名程度であることが確認できているが、茨城空港の利用も考慮していくと、どの程度かという詳しい数字を申し上げるのは難しい。かしてつバスの1日平均利用者数として平日1,000人/日、休日800人/日という結果は得ている。

審議経過および審議内容

- (委員) せっかく調査を実施するのであれば、人がいない場所で実施するのではなく、多くの人が集まる様々な場所で実施した方が良いのではないか。
- (座長) 昨年度の調査結果の中で示されているネットワーク整備方針で広域ネットワーク軸、地域循環軸、フィーダー軸、交通結節拠点の整備があり、それぞれの拠点を1箇所抽出して、この計画が確かに利用される計画かを検証するものである。この計画でよかったと思えるのが良いのではないかと思う。
主要幹線ネットワーク相互が交差しているJR羽鳥駅と小川駅を選んだ後、地域内循環軸上にある医療センター、カスミ小川とみの〜れとコスモスといった施設で調査することが必要と考えている。
- (委員) 生涯学習センターで振り込め詐欺の講習をしており、講習を受けに来るのは高齢者が多く、自転車で来るかあるいは、個人の送迎に頼っていることが多くなっているため、送迎してくれる人は何回も何回も往復している状況となっている。高齢者の方で講習に来たくても来れない人たちが多くいる。来たくても来れない人も対象に調査をした方が良いのではないか。
- (座長) 外出したくてもできない人の外出を支援するというのも対象としているので、外出したくてもできない人たちがどこに行きたいと言っているのか教えてほしい。
- (委員) 外出したくてもできない人たちは、生涯学習センター（コスモス）に行きたいということである。
- (座長) コスモスで良いということですね。
- (委員) こういった場に出席するのであれば、是非要望を挙げておいてほしいと言われているので、この場を借りて発言させて頂いた。
- (委員) 組織の代表がアンケートをまとめてはダメなのか。
- (委員) ボランティア団体を経由して、アンケートを実施するのは可能だと思うが聞いてみないと分からないと思う。

審議経過および審議内容

(座 長) ヒアリング調査では、想定する交通システムが導入されたときに幸せになる人がいるのであれば、そういったところを重点的に聞いても良いと思う。

(事務局) 福祉施設と生涯学習センターについては、講座やイベントなど人が集まるときに調査を実施してみたいと思う。
別途、協力してもらえるのであれば、アンケートを実施しても良いと思う。

(座 長) 今回調査箇所を 5 箇所としていたが、もう少し幅広く多くの市民の人から意見を把握することや年齢層を考えると、同時に重点的に対象者に対して調査することも考えつつ調べていきたいと思います。

(委 員) P13 のバス路線図に何点か誤字、誤りがあるため、修正してほしい。

(座 長) 他に何かありますか。

(委 員) 新たな公共交通機関の導入は非常に良いことと思うが、P10 で示されている検討委員会の開催は 4 回、H24 年度以降に社会実験とされているが、H24 年度以降に結果を出すということか。

(座 長) 結果とはどういったイメージか。

(委 員) 行政の方では是非やりたいと思ってやっているのか聞きたい。

(座 長) やりたいというかやらなきゃいけないという思いでやっている。基本的な構想ができて、本当に利用してもらえるのかを確認する調査を今年実施し、利用してもらえそうというのが見込めれば、次の段階として、期間などを区切って社会実験を実施し、そこで利用が見込めれば、本格的な運行に移行していく。今までのように短期間で計画を立てて、予算をつぎ込んで実施したときに利用がないということにならないようにしていきたい。

小美玉市は面積が広くて、自動車利用が主となっているので、なかなか公共交通が息できない地域とイメージしているが、そういった中でも公共交通がないと生活できない人たちもいると思うので、無駄遣いをしないで効率よい公共交通を地域・交通事業者・行政が一体となって作り出しこうとしているので、時間がかかることについては、理解してほしい。

審議経過および審議内容

(委員) 市全体の交通としての調査を行ったと言ったが、人が集まる場所でアンケートを実施して、新たな公共交通が導入された場合の利用意向を聞けば、利用すると回答するのが必然ではないか。もっと広い意見を聞かないと意味がないのではないか。

(座長) 以前のアンケートは、学術的にサーベイといい、市民の意向をランダムに抽出してまとめるもので、その結果として公共交通に関する認知度が低い、不便に感じていない、自家用車の普及率が高いというのが分かったところである。アンケート結果から小美玉市における公共交通機関はどうあるべきかを委員会で検討して、幹線軸、地域内循環軸、フィーダーなどの方向性を決めて、基本計画を作ってきたところである。これを基に利用してもらえるかというのを把握するための調査を今年度実施する。先ほど話しにあったと思うが、自動車を利用している人に聞いても意味がなくて、本当に利用してくれそうな人をターゲットに聞いた方が良いと思っており、今回の計画で本当に良いのかという疑問を投げかけられているので、もっと的を得たような調査とするために、きめ細かく再検討したほうが良いと思う。以前の調査と今回の調査は性格が違うことを理解してほしい。

(委員) 導入しようと考えている公共交通機関は、市の予算で運行することになるのか。

(座長) そういうことになると思う。

(事務局) 簡単に言うと市の予算となると思う。市としては、財源を確保するために国の補助金の活用や個人負担金などを含めて検討していきたいと思う。

(委員) 回答が難しいと思うが、これからの公共交通は、利用者優先として考えるのか。それとも経費優先で考えていくのか。

(事務局) この検討委員会の目的として、高齢化社会を見据えて公共交通が維持できるような仕組みづくりをしていきたいと思っている。経費や効果などを含めて維持できるような仕組みづくりをしていきたい。

(委員) 利用者優先か経費優先かというのは現時点では考えていないということではよいか。

審議経過および審議内容

(事務局) 現時点では、まずどういった公共交通であれば利用してもらえるのか、社会実験を通じてどの程度の利用が見込めるものなのかを検証したうえで、より良いシステムを構築していきたいと考えている。

(委員) 利用者としてみれば、無料が良いはずである。実際、無料というのは無理だと思うので、市の負担や個人の負担が必要となると思うが、市としてはどの程度までであれば、予算を確保できるかというのはまだ考えていなということでしょうか。

(事務局) その通りである。

(座長) とにかく予算がどの程度必要かというのは、1日何本運行するのかによっても変わってくるので、まず、地域循環に対するニーズがあるのかを把握する必要がある。また、幹線と循環を合わせて、それぞれの拠点にフィーダーを上手く利用する賢く乗り継いでいく人がいるのか確認する必要がある。ある程度いることが分かれば、何本ぐらい運行すれば良いかなどが分かってくる。

(委員) 高齢者で外出できない人は移動手段を持っていないので、手段さえあれば外出すると思うが、途中までの移動支援だと大変である。やはり、自宅まで迎えに行き、直接目的地まで行けるほうが良いのではないかな。

(座長) その辺については、タクシー補助も含めて、4種類ほどの交通システムが候補として挙げられているので、それを上手く乗り継いで移動してもらうということを前提に調査していきたい。

(委員) 昨年8月にかしてつバスが運行し始めているが、先ほどの話にあったとおり小川駅が寂しい状況であるので、利用者に対して小川駅がどんな風に変わればよいかということについても聞いてほしい。

(座長) その件については、調査でヒアリングするようにする。他にございますか。意見がなければ、本日頂いた意見を基に調査精度が上がるような計画を作るようにする。

(3) その他について・・・・・茨城県より活性化指針（概要）について説明

審議経過および審議内容

- (座 長) 小美玉市が目指しているところと茨城県が目指している方向性が同じ方向に向いているのではないかと思う。交通システムも部分的に見ていくのではなく、総合的に見ていく必要がある。
通して何か確認事項または意見はあるか。調査概要について、意見を頂いたので、精査して報告する。
- (事務局) 次回の検討委員会は、計画を見直して9月あるいは10月上旬に開催する予定である。
- (座 長) 意見がないようなので、以上で閉会とする。